

様々な分野に触れ、やりたいことを見つけました。  
デザインの楽しさを、今、実感しています。



健康生活学部  
生活デザイン学科 3年  
ひさ まつ み ゆ き  
**久松美由希さん**  
長崎県／活水高等学校卒業

#### Q1 生活デザイン学科を選んだ理由は?

**いろいろな分野が学べるので、デザイン好きにはぴったり。**

私はデザインをすることが好きで、生活デザイン学科に入学しました。この学科では生活雑貨・プロダクト、家具・インテリア、建築、環境・地域・文化・芸術、ファッション・アパレル、グラフィック・Web・メディアについて学びます。デザインに関するさまざまな分野が学べるので、自分のやりたい分野が決まっていなくても、学びながら見つけることができます。

#### Q2 興味のある科目とその魅力は?

**やりたいことが2つ見つかりました。**

私はやりたい分野がハッキリしないままこの生活デザイン学科に入学しましたが、この学科で3年間さまざまな分野を学んだ今、取り組んでみたい分野が2つ見つかりました。

1つ目はプロダクトです。いわゆるモノのデザインです。イスやテーブル、コーヒーカップやスプーン、シャンプーボトルなど、私たちの周りにはスマートフォンから電車までプロダクト製品であふれています。

陶芸実習やプロダクトデザインの授業では実際に湯のみやランプシェード、スプーンなどを製作します。自分のオリジナルのカタチを造るところから始めるので、難しさがありますが、やりがいもあります。また、友人同士でも個性あふれる作品がたくさんあるので、参考にもなりとても楽しいです。

2つ目はグラフィックです。街中を歩いていると時折目に付く広告やポスターなど、ブランドのマークや店の看板に用いられるロゴもグラフィックです。この学科の授業で初めてイラストレータとフォトショップというCGソフトに触れパッケージ、ポストカードなどのデザインを制作しました。同時に商品企画からプレゼンテーションまでCGなどを用いてまとめることもしました。

#### Q2 活水の教育を通じて発見はありましたか?

**デザインの楽しさを改めて実感しています。**

生活デザイン学科では、1年次に講義でデザインに関する専門的知識を学び、実習などを通して幅広くデザインに触れます。この学科ならではのものがたくさんあり、学ぶにつれて「人々の心にとどくようなグラフィックデザインを自分で作成したい」と思うようになりました。現在では、自主的にもグラフィックの制作に取り組んでいます。

また、インダストリアルデザインの授業では、製品開発のデザインも学びました。具体的には、香水瓶のデザ



長崎県美術館での4年生作品展の案内風景

#### Q5 将来の夢は?

**「想い」を「カタチ」にできる人へ。**

将来は商品などの広告制作や製品開発のデザインに携わっていけたらと思っています。

自分の想いや「誰かのために」をカタチにする上で、「どう表現するか」、「どのような人に使ってもらいたいのか」などを試行錯誤して実現する事は大変かもしれません。

しかし、大学で出される課題も一つひとつがデザインするにあたって重要なもので

あり、「どうすれば伝わるのか」、「どうすれば想いをカタチにできるのか」と目的や方法を常に考えながら取り組んでいこうと心がけています。何より、身の周りにある身近なデザインを考えることは楽しいので、一つひとつの課題も苦にはなりません。

新市民病院のIDカードにデザインを採用していただいたり、ゼミで長崎市とのプロジェクトに参加したりと、今振り返るだけでも、この生活デザイン学科で学んだことはどれも貴重な経験です。そして、今後も充実した大学生活になるようにデザイン力を培い、これからも成長していきたいと思っています。

インで、背景として市場分析からデザインのコンセプト「どのような職業や嗜好、年代、ライフスタイルなのか」など細かな設定から素材や技術的な事も考えて企画するのですが、授業を通して自分が考えたデザインを手にする事の喜びと、使う人の気持ちをよく考えたデザインの大切さ、面白さを知りました。教室での学びだけでなく、実際にデザインのプロジェクトやコンペに参加して、社会の中での意義や楽しさを実感しています。

#### Q4 学生生活で頑張ったこと、頑張っていることは?

**チャレンジする気持ちが、その先を見せてくれる。**

私が今後力を入れていきたい分野はプロダクトとグラフィックですが、これまでさまざまな分野を学んできたからこそ、この2つに絞ることができたのではないかと思います。デッサン、基礎製図、CADオペレーション、ファッション製作実習、芸術文化論、環境デザイン論、染色実習など、たくさんの講義や実習を、興味があるかないかではなく、「まずはやってみよう」とチャレンジする気持ちで臨みました。